

# 『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

## ひまわり 向日葵

平成28年7月第4週放送

ひまわり  
向日葵は、太陽を追いかける花、そんなイメージがあります。朝は東を向き、昼は南を、夕方は西を向くというように。

しかし実際は、花が開く前の若い向日葵だけが、太陽を追いかけるのです。花が開いた後の向日葵は、太陽を追いかけることをやめ、東を向くようになります。

若い向日葵が太陽を追いかけて、その光を全身に浴びて成長し、やがて大人になり、自立し、太陽を追いかけるのをやめる、といったイメージが浮かんできます。

若い向日葵にとって、太陽は親でしょうか。あるいは先生でしょうか。

仏教において、一番の先生といえば、お釈迦さまになるでしょう。

お釈迦さまの弟子たちは、まずお釈迦さまを手本にして、修行に励んだにちがいありません。お釈迦さまのことは、お釈迦さまの立ち居振る舞い、お釈迦さまの表情、お釈迦さまの生き方。それらを、常に見、聞き、感じながら、精進しょうじんしたのだと思います。

それはさながら、太陽を追いかける若い向日葵ひまわりのようです。

やがて、弟子たちは、それぞれにさとりを開きます。

その時、お釈迦さまは弟子たちに、「これからは、自分自身と、私の伝えた教えをよ拠り所としなさい」とおっしゃるのです。

お釈迦さまという太陽を追いかけて続けるのをやめ、自立しなさい、ということなのでしょう。

若い向日葵が太陽を追いかけるのをやめ、東を向く様子と重なります。

それでは、東とは何でしょうか。毎日、太陽が新しく昇る方角です。日々新たに昇る太陽を、向日葵は常に見つめます。

向日葵にとっての東の方角は、お釈迦さまの弟子たちにとって何になるのでしょうか。

それは、お釈迦さまの教えではないでしょうか。お釈迦さまの教えは、修行を続ける弟子たちにとって、常に瑞々みずみずしく感じられるものだったにちがいありません。毎日新たに昇る太陽のように、いつも新しさをもったものではなかったかと思いません。若き向日葵が太陽を追いかけて、花開いた後は、太陽の昇る東を向く。

向日葵は、お釈迦さまの弟子たち、ひいては、お釈迦さまの教えを拠り所とする私たちの姿である、そんな気がいたします。

— 終 —